
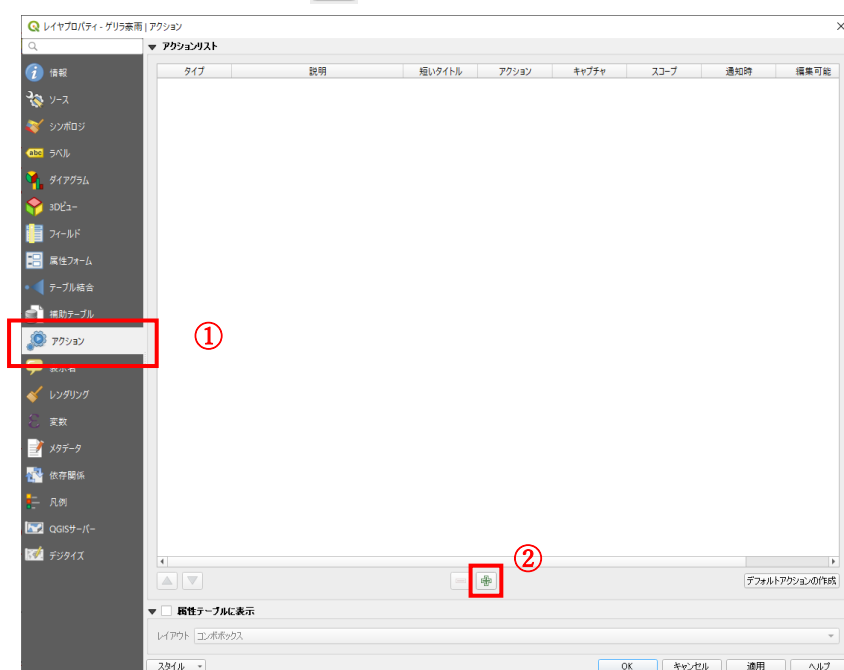


汎用調書作成機能の開発 成果品内容

1. 単票・単体調書作成

(ア) アクションの登録

- ① 対象レイヤの「レイヤプロパティ」ダイアログを開き、アクションページを開きます。
- ② アクションリストの  ボタンをクリックします。




- ③ 「新しいアクションを追加」ダイアログにて以下のように設定します。

タイプ	必須	Python
説明	必須	任意の文字列
短い名前	任意	任意の文字列
アイコン	任意	設定任意
アクションスコープ	必須	地物スコープ

- ④ ¥exportExcel¥exportSingle.py の内容をテキストコピーして、「アクションテキスト」のテキストボックスに貼り付け、「OK」ボタンをクリックします。



(イ) レイヤ変数の登録

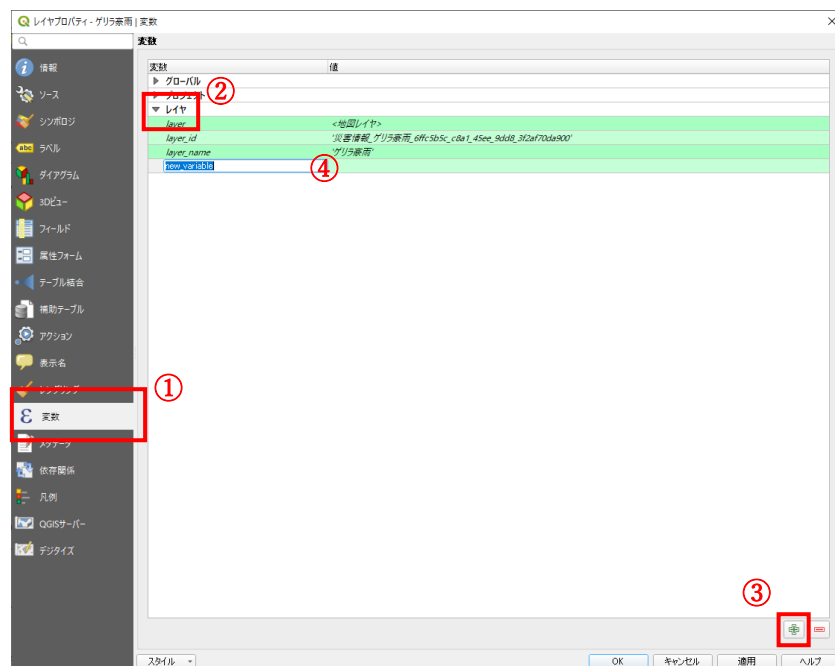
- ① 同じ「レイヤプロパティ」ダイアログの「変数」ページを開きます。
- ② 「変数」アコーディオンの「レイヤ」を開きます。
- ③ 「変数」リストの  ボタンをクリックします。
- ④ 以下の4つの変数を登録してください。

変数名	内容
xlsout_template_path	テンプレートとなる Excel ファイルパス。 絶対パス、プロジェクトファイルからの相対パス、 どちらも指定可能。 パス区切り文字は"/"、"¥"どちらも使用可能。 必ず存在するファイルパスを設定してください。
xlsout_output_path_fixed	出力ファイルパスの既存ディレクトリパス。 絶対パス、プロジェクトファイルからの相対パス、 どちらも指定可能。 パス区切り文字は"/"、"¥"どちらも使用可能。 必ず存在するディレクトリパスを設定してください。
xlsout_output_path_variable	xlsout_output_path_fixed で指定したディレクトリ の下に出力するファイルパス。 パス区切り文字は"/"、"¥"どちらも使用可能。 動的にディレクトリおよびファイルを作成します。

変数名	内容
dpi	地図画像を作成する際の DPI を数値で設定してください。

「dpi」以外のどの変数も以下の条件を満たす式を指定できます。

- QGIS で使用できる関数であること
- 固定文字列はシングルクォーテーションで括ること
- フィールド名はダブルクォーテーションで括ること
- 連結には”||“を使用すること



(ウ) テンプレートファイルの作成

拡張子は”xlsx”、”xls”、”xlt”、”xltx” どれも使用可能です。

選択地物の属性値をセルの値として設定したい場合は、セルの値に

##Attach:: (属性フィールド名)

を設定します。##Attach::は全て半角で指定します。属性フィールド名として設定したフィールドがない場合は、セルはクリアされます。

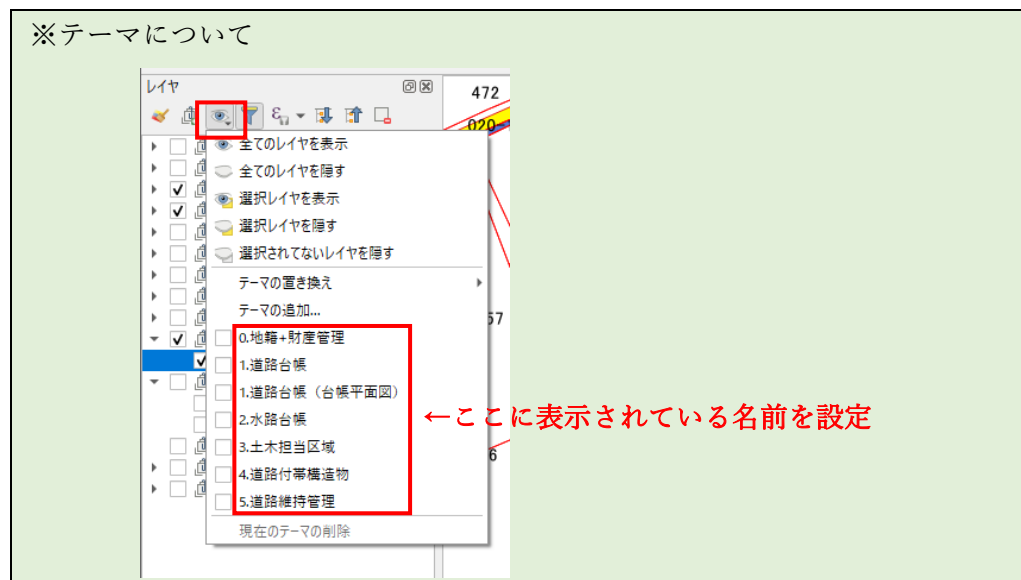
地図画像を挿入したいセルには

##AttachFitImage:: (テーマ名) :: (縮尺)


を設定します。

テーマ名を省略すると、実行前の状態で出力します。

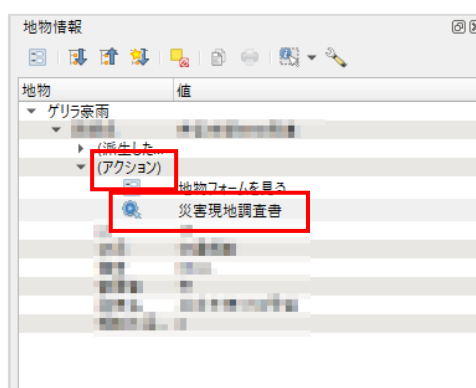
テーマ名は必ず設定済みのテーマ(※)を指定してください。
縮尺は省略すると、アクション実行時の縮尺を使用します。



(エ) アクションの実行

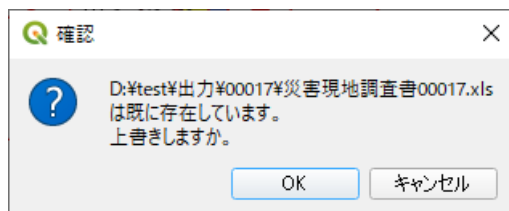
アクションスコープとして「地物スコープ」を設定しているので、「地物情報表示ツール」  で選択した地物の「地物情報」パネルから実行します。

- ① レイヤパネルで対象のレイヤを選択し、「地物情報表示ツール」で対象レイヤの地物を選択します。
- ② 「地物情報」パネルの（アクション）から登録したアクションをクリックします。

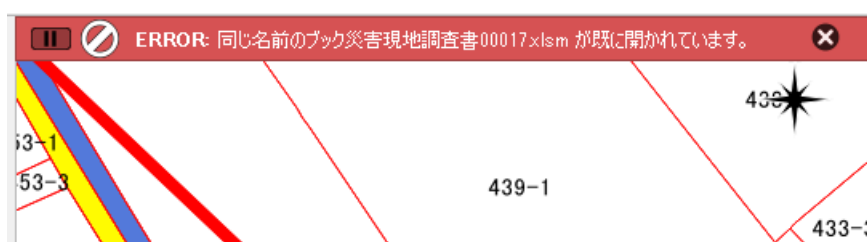


- ③ レイヤ変数“xlsout_template_path”に指定した Excel テンプレートファイルから新規にブックが作成されます。
- ④ ブックはレイヤ変数“xlsout_output_path_fixed”と“xlsout_output_path_variable”を連結した場所に自動保存されます。

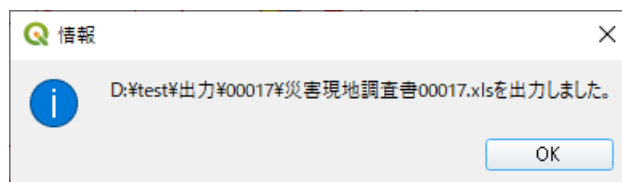
既に同名ファイルが存在していた場合、実行前に確認メッセージボックスが表示されますので、続行する場合は「OK」を、中止する場合は「キャンセル」をクリックしてください。



Excel アプリケーションで同名のブックを開いたまま実行するとエラーになり、地図の上部にエラーメッセージが表示されます。




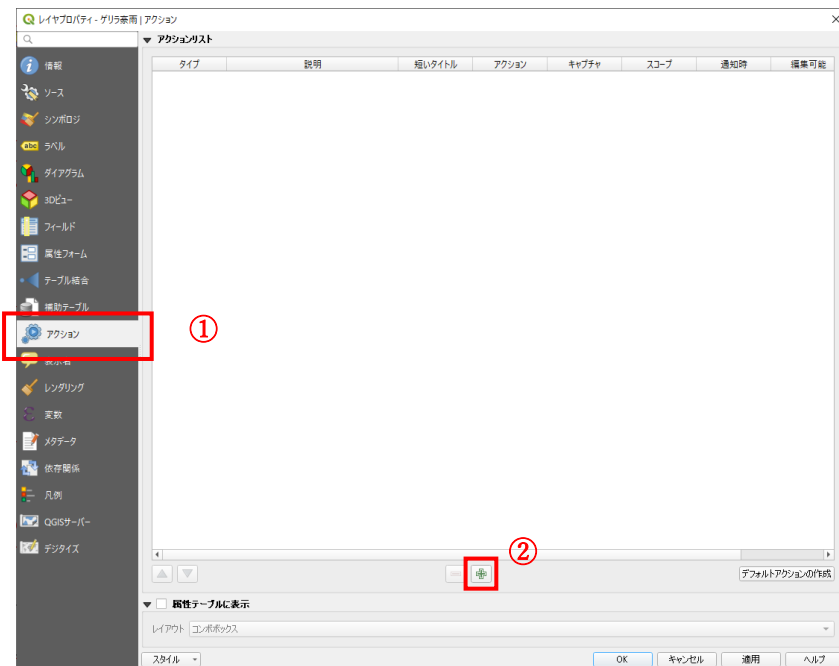
- ⑤ 正常終了すると Excel アプリケーションが起動し作成したブックを表示した後、以下のメッセージボックスが表示されます。



2. 単票・一括調書作成

(ア) アクションの登録

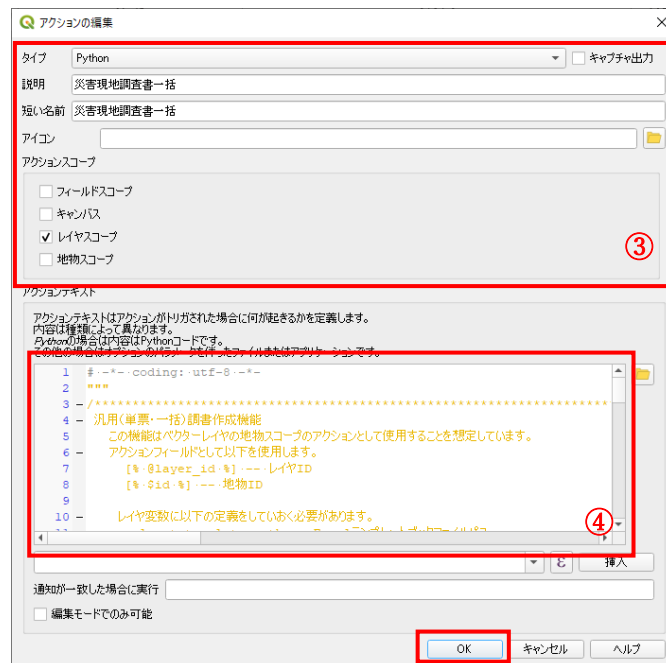
- ① 対象レイヤの「レイヤプロパティ」ダイアログを開き、アクションページを開きます。
- ② アクションリストの  ボタンをクリックします。



- ③ 「新しいアクションを追加」ダイアログにて以下のように設定します。

タイプ	必須	Python
説明	必須	任意の文字列
短い名前	任意	任意の文字列
アイコン	任意	設定任意
アクションスコープ	必須	レイヤスコープ

- ④ `¥exportExcel¥exportSingleBulk.py` の内容をテキストコピーして、「アクションテキスト」のテキストボックスに貼り付け、「OK」ボタンをクリックします。



(イ) レイヤ変数の登録

「単票・単体調書作成」と同じレイヤ変数を使用します。

詳しくは「単票・単体調書作成」の「レイヤ変数の登録」を参照してください。

(ウ) テンプレートファイルの作成


「単票・単体調書作成」と同じレイヤ変数を使用します。

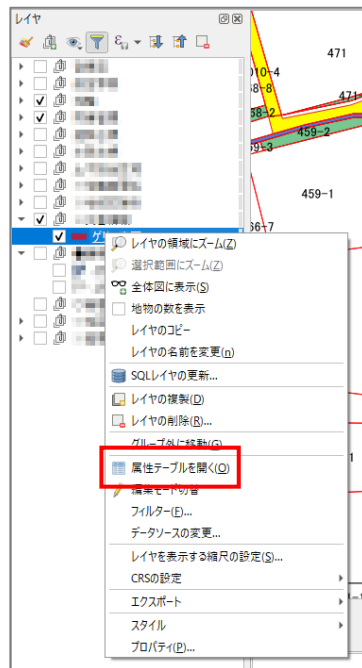
詳しくは「単票・単体調書作成」の「テンプレートファイルの作成」を参照してください。


(エ) アクションの実行

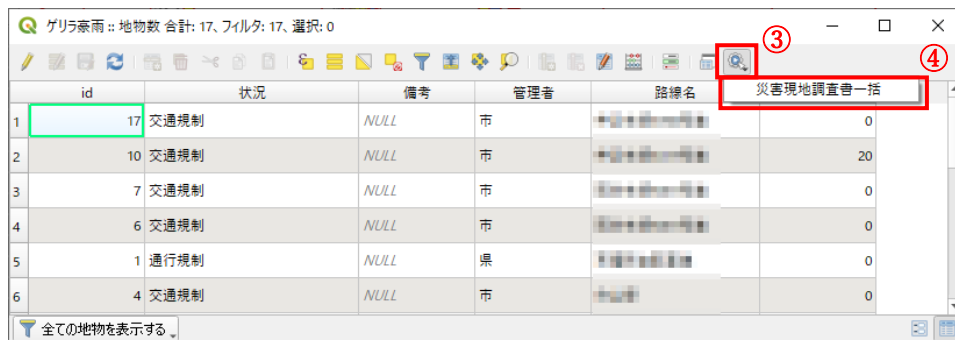
アクションスコープとして「レイヤスコープ」を設定しているので、「属性テーブル開く」で選択した地物の「地物情報」パネルから実行します。

- ① レイヤパネルで対象のレイヤを選択し、右クリックでショートカットメニューを開き「属性テーブルを開く」を選択します。

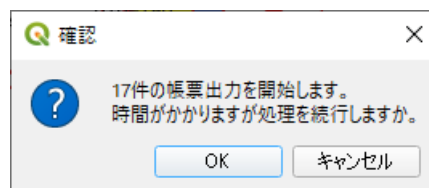
あるいはツールバーの「属性テーブルを開く」ボタン  をクリックします。



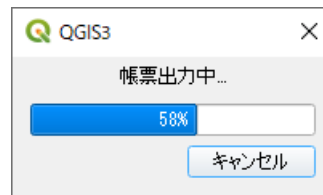
- ② 属性テーブルダイアログのツールバーの「アクション」ボタン  をクリックすると、設定した名前でメニューが表示されます。
- ③ メニューをクリックします。



- ④ 属性テーブルで複数の地物が選択されていた場合は選択地物分、選択が1件以下の場合はレイヤに属する全地物に対して出力が行われます。
- 開始直後に、出力する件数と処理を続行するか確認メッセージが表示されます。続行する場合は「OK」ボタン、中止する場合は「キャンセル」ボタンをクリックしてください。

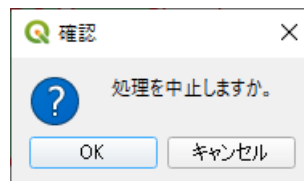


- ⑤ レイヤ変数“xlsout_template_path”に指定した Excel テンプレートファイルから新規にブックが作成されます。
- ⑥ ブックはレイヤ変数“xlsout_output_path_fixed”と“xlsout_output_path_variable”に地物ごとに指定した場所に自動保存されます。
既に同名ファイルが存在していても**確認なしで上書き**されますので注意してください。
- ⑦ 処理中は進捗が表示されます。

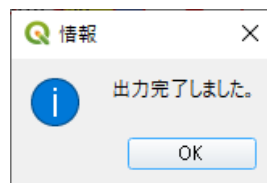


中止する場合は「キャンセル」をクリックしてください。

中止するかの確認メッセージが表示されます。中止する場合は「OK」ボタンを、中止せずに出力処理を再開する場合は「キャンセル」をクリックしてください。ただし中止しても既に出力が行われたものは元に戻せません。




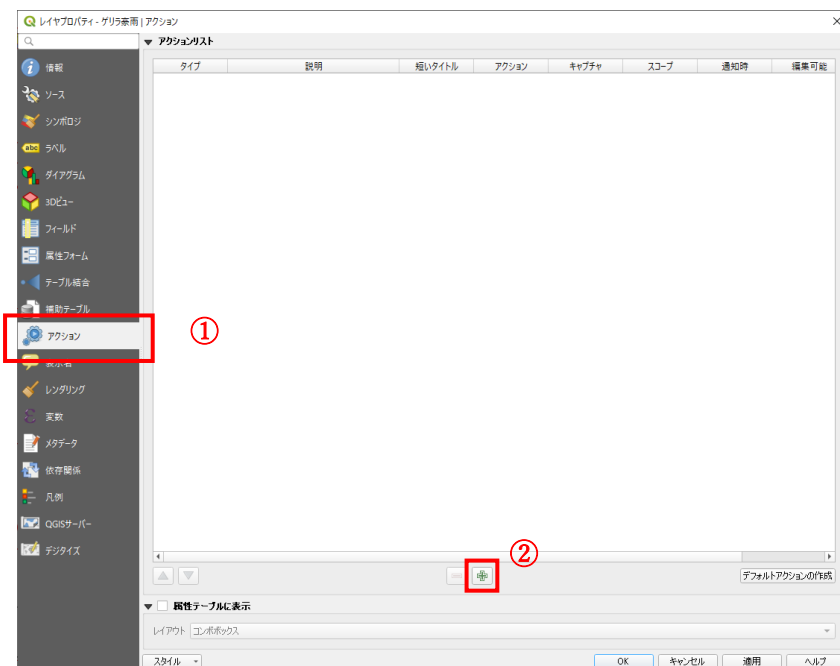
- ⑧ 正常終了すると以下のメッセージボックスが表示されます。
出力したブックは開きません。



3. 単票・一括調書作成

(ア) アクションの登録

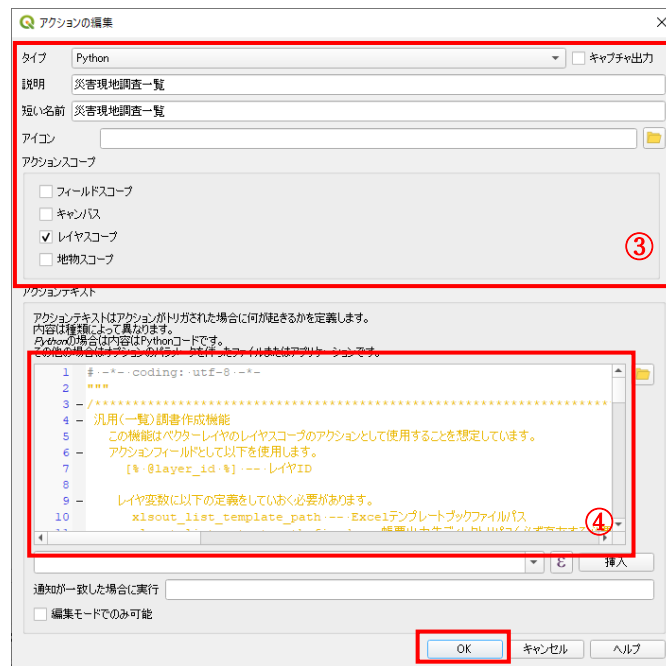
- ⑤ 対象レイヤの「レイヤプロパティ」ダイアログを開き、アクションページを開きます。
- ⑥ アクションリストの  ボタンをクリックします。




- ⑦ 「新しいアクションを追加」ダイアログにて以下のように設定します。

タイプ	必須	Python
説明	必須	任意の文字列
短い名前	任意	任意の文字列
アイコン	任意	設定任意
アクションスコープ	必須	レイヤスコープ

- ⑧ ¥exportExcel¥exportList.py の内容をテキストコピーして、「アクションテキスト」のテキストボックスに貼り付け、「OK」ボタンをクリックします。



(イ) レイヤ変数の登録

- ① 同じ「レイヤプロパティ」ダイアログの「変数」ページを開きます。
- ② 「変数」アコーディオンの「レイヤ」を開きます。
- ③ 「変数」リストの  ボタンをクリックします。
- ④ 以下の4つの変数を登録してください。

変数名	内容
xlsout_list_template_path	テンプレートとなる Excel ファイルパス。 絶対パス、プロジェクトファイルからの相対パス、どちらも指定可能。 パス区切り文字は"/"、"¥"どちらも使用可能。 必ず存在するファイルパスを設定してください。
xlsout_list_output_path_fixed	出力ファイルパスの既存ディレクトリパス。 絶対パス、プロジェクトファイルからの相対パス、どちらも指定可能。 パス区切り文字は"/"、"¥"どちらも使用可能。 必ず存在するディレクトリパスを設定してください。

変数名	内容
xlsout_list_output_path_variable	xlsout_list_output_path_fixed で指定したディレクトリの下に出力するファイルパス。 パス区切り文字は"/"、"¥"どちらも使用可能。 必ず存在するディレクトリパスを設定してください。 動的にディレクトリおよびファイルを作成します。

どの変数も以下の条件を満たす式を指定できます。

- QGIS で使用できる関数であること
- 固定文字列はシングルクォーテーションで括ること
- フィールド名はダブルクォーテーションで括ること
- 連結には"||"を使用すること

(ウ) テンプレートファイルの作成

拡張子は"xlsx"、"xls"、"xlt"、"xltx" どれも使用可能です。

繰り返す行の列ごとに

##ListInsert:: (属性フィールド名)

を設定します。##ListInsert::は全て半角で指定します。属性フィールド名として設定したフィールドがない場合は、セルは空白のままとなります。

シートごとに最初の##ListInsert::が現れたセルから最後の##ListInsert::が現れたセルまでを繰り返し行として行全体を地物の件数分下方向にコピーし、##ListInsert::を指定したセルを属性値で置換します。

結合セルも指定できます。

例として以下のように設定します。


	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N
1														
2		ID		状況	備考			管理者／規制水深	承諾	路線名				
3	No.	##ListInsert::		##ListInsert::状況	##ListInsert::備考			##ListInsert::管理者		##ListInsert::路線名				
4								##ListInsert::規制 m ²						
5														
6														
7														

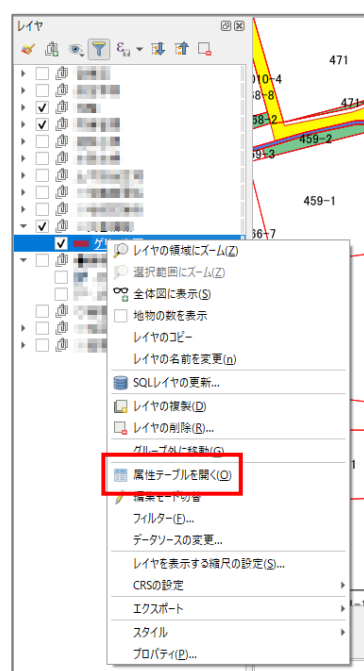
(エ) アクションの実行


アクションスコープとして「レイヤスコープ」を設定しているので、「属性テーブル開く」で選択した地物の「地物情報」パネルから実行します。

- ① レイヤパネルで対象のレイヤを選択し、右クリックでショートカットメニュー

ーを開き「属性テーブルを開く」を選択します。

あるいはツールバーの「属性テーブルを開く」ボタン  をクリックします。



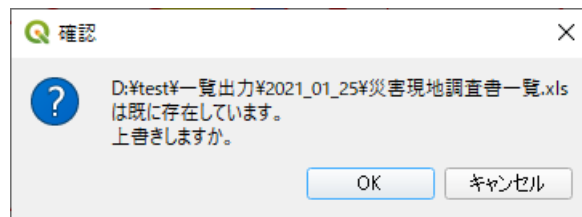
② 属性テーブルダイアログのツールバーの「アクション」ボタン  を ク リ ックすると、設定した名前でメニューが表示されます。

③ メニューをクリックします。

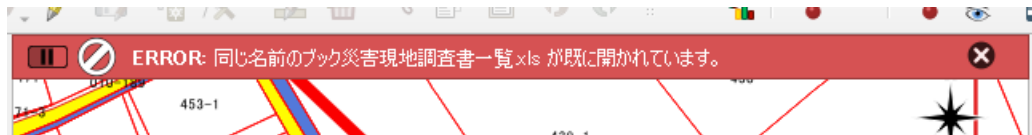


④ レイヤ変数“xlsout_list_template_path”に指定した Excel テンプレートファイルから新規にブックが作成されます。

⑤ ブックはレイヤ変数“xlsout_list_output_path_fixed”
と“xlsout_list_output_path_variable”を連結した場所に自動保存されます。
既に同名ファイルが存在していた場合、実行前に確認メッセージボックスが表示されますので、続行する場合は「OK」を、中止する場合は「キャンセル」をクリックしてください。



Excel アプリケーションで同名のブックを開いたまま実行するとエラーになり、地図の上部にエラーメッセージが表示されます。



- ⑥ 正常終了すると以下のメッセージボックスが表示されます。
出力したブックは開きません。

